

## ② 今後予想されることの整理



## 支援活動の障壁となるもの

### 情報の錯綜

タイムリーな**情報の不足**,  
役場にある**基礎データの流出**



### 活動範囲の制約

**移動範囲**, **移動手段**, **活動時間の限定**

### 生活基盤の崩壊

**ライフラインの寸断**, **食料・飲料水の不足**,  
**トイレの問題**

## 地域リハビリテーション支援の トライアージ的作業

- ・ **医療的**の支援が必要？
- ・ **介護的**の支援が必要？
- ・ **近隣住民の支え**で自立？
- ・ **家族の支え**で自立？
- ・ **環境を整えれば**自立？



**介護的支援**(現在, 今後)が必要な方の健康  
維持・生活を支援する**チームの立ち上げ**が必要！

## ③ 支援の方向性を 地元のスタッフと確認



## 支援チームの立ち上げ

災害医療コーディネーター, 地元の市町保健師  
地元の理学・作業療法士・言語聴覚士との**情報交換**

- ⇒ 地元のリハビリスタッフだけでは活動が**困難**。
- ⇒ 外部支援団体へ当面の間の**ボランティア派遣を要請**。



気仙沼市, 南三陸町にそれぞれ  
『被災からの復興のための  
地域リハビリテーション支援チーム』  
を発足。



## 支援チームに 御協力くださった団体

- ・ 宮城県理学療法士・作業療法士会
- ・ 日本理学療法士・作業療法士協会
- ・ 栃木県医師会塩原温泉病院

ほか各種医療チーム, 支援団体



# ④ 外部支援団体との連絡 全体の活動調整



## 支援活動

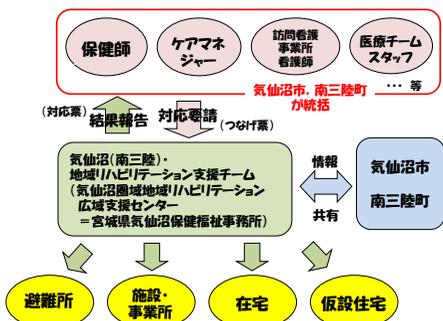
～1次避難所, 仮設住宅, 在宅の支援～

『被災からの復興のための気仙沼(南三陸)  
地域リハビリテーション支援チーム』

- ・ 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, 医師等で構成。
- ・ 介護的支援(現在, 今後)が必要な方を対象。
- ・ それらの方の健康が維持できるようにお手伝い。
- ・ 地元の関係機関・施設・事業所が再開するまで  
の活動。



## 支援までの流れ



## つなげ票

## 対応票

## 具体的な活動内容

～自立のための環境調整支援～

- ・ 杖の長さ調節, 使い方の提案
- ・ 生活を楽にするための道具の提案
- ・ 避難所トイレの改造, 段差の解消
- ・ 椅子, ダンボールペットの設置
- ・ 転倒せずに暮らすためのレイアウト, 物の配置



### 具体的な活動内容 ～健康維持支援～

- ・ 血の流れを良くしたり、身体が硬くなることを**予防**する方法
- ・ **床から倒れずに立ち上がる**方法
- ・ **転ばずに歩く**方法
- ・ 膝や腰に**負担の少ない**介助方法

等の提案



### 具体的な活動内容 ～場と時間の共有～

- ・ **ゆっくり話をきく**  
(被災者が話したい気分するとき)
- ・ **散歩**への同行
- ・ 気分転換及び健康維持のための**お茶っこ会**の開催  
⇒ 健康講話, レクリエーション, 雑談・・・  
⇒ 『**気仙沼・いけいけ！お茶っこ体操**』



健康支援(仮設住宅)



気仙沼・いけいけ！  
お茶っこ体操(避難所)



毎朝・夕のミーティング



車いす(支援物資)の搬入と  
使い方の提案・説明  
(介護保険事業所)

### 支援活動 ～大規模2次避難所の支援～

サンマリン気仙沼ホテル観洋(気仙沼市)

- ・ 平成23年5月から同年9月まで
- ・ 50世帯200人が生活。
- ・ **要支援者**が優先的に避難。
- ・ 医療・保健・介護・福祉的支援の必要性が高い。



東日本大震災リハビリテーション支援関連10団体に  
常駐支援【6月13日～】を依頼

### 具体的な活動内容 ～状況に合わせた柔軟な支援～

- ・ 一人暮らし、**高齢の方への声かけ**や**お部屋訪問**
- ・ **お茶っこ会**の開催  
⇒ 『**気仙沼・いけいけ！お茶っこ体操**』の誕生！
- ・ **整形・リハビリ相談会**の開催  
(整形外科医, リハビリ専門医)



### 具体的な活動内容 ～密な情報共有～

- ・ 市保健師等支援スタッフとの**情報交換**(随時)
- ・ ホテル内定例**ミーティング**の開催(週1回)  
⇒ 市保健師, ホテル観洋営業部長,  
リハ10団体・県保健所スタッフ
- ・ 地域リハビリ支援チームとの**合同ミーティング**  
(毎朝・夕)





## 気仙沼・いけいけ！お茶っこ体操

【提唱】  
東日本大震災リハビリテーション支援関連10団体  
(戸畑リハビリテーション病院チーム)  
被災からの復興のための  
気仙沼・地域リハビリテーション支援チーム

【命名】  
宮城県気仙沼保健福祉事務所



## 気仙沼・いけいけ！お茶っこ体操

【目的】  
心身機能の低下等の生活不活発状態の  
予防のみならず、同体操をみんなで一緒に  
楽しく踊ることで、お互いに親近感が湧き、  
新たな人間関係づくり、引いては地域づくり  
のきっかけとなることを願い考案。  
同体操の地域への浸透を目的とした。

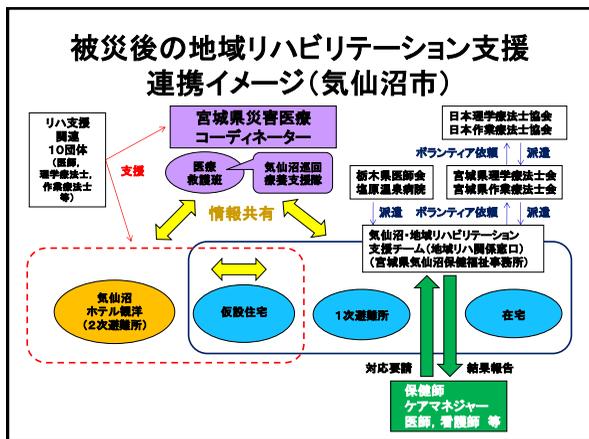


## 気仙沼・いけいけ！お茶っこ体操

【踊り方】

- ・ 美空ひばりの『東京キッド』の曲に合わせて踊る！
- ・ 振り付けは宮城県気仙沼保健福祉事務所ホームページ参照。  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-health/rihaoyakudachi.html>

※ 気仙沼・地域リハビリテーション支援チーム活動終了後の平成24年度からは、気仙沼市の保健師さんが、同体操を気仙沼市の介護予防体操として地域へ普及し、地域づくりに役立ててくださっています(介護予防体操普及サポーターの養成)。新バージョンでは、曲が千昌夫の『北国の春』にかわりました(振り付けはかわっていません)。

## ⑤ 地元移行へ向けての段階的な引継ぎ



## 地元へのゆるやかな移行 ～ソフト・ランディング～

地元関係機関・施設・事業所の活動が徐々に再開。

対象者の段階的な支援の引継ぎ。  
(地元の市町保健師、ケアマネジャー、相談員等へ)



- 外部支援団体からのスタッフ・ボランティアの派遣終了。  
【気仙沼市:~9月, 南三陸町:~7月】
- 地域リハビリ支援チームは県の保健福祉事務所スタッフが活動を継続。

## 外部からの支援実績・総数

	気仙沼・ 地域リハ 支援チーム	南三陸・ 地域リハ 支援チーム	リハ支援 関連10団体 (※)	合計
スタッフ数(実)	121名	39名	48名	208名
支援総日数	117日	99日	110日	-
支援期間 (平成23年)	4月9日 ~9月2日	4月9日 ~7月15日	6月13日 ~9月30日	4月9日 ~9月30日
支援を受けた 避難者数(実)	617名	250名	-	-
支援を受けた 避難者数(延べ)	1,851名	593名	1,135名	3,579名

※ 先遣隊として、5月いっぱいをかけ、山形チーム(山形大学病院, みゆき会病院, 山形済生病院)からも御支援をいただきました!

## ⑥ 今後の展望を 地元のスタッフと共有



## 地元のスタッフとの協働

- 市町の建設部署, 保健福祉部署  
⇒ 仮設住宅のバリアフリー化
- 市町の保健師  
⇒ 訪問員, 福祉協力員の人材育成
- 地元の施設・事業所スタッフ,  
訪問員, 支援相談員, サポートセンター職員  
⇒ 支援対象者の継続的フォロー  
仮設住宅集会所等でのお茶っこ会の開催



南三陸町保健師へ  
支援ケースの引継ぎ



気仙沼市友愛訪問員研修



お茶っこ会  
(仮設住宅集会所)



みんなで仲良く“お茶っこ体操”  
(仮設住宅集会所)

## 仮設住宅のバリアフリー化

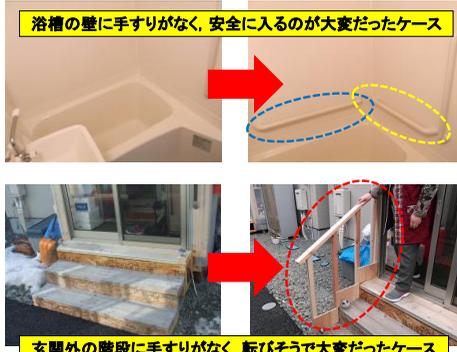
既存の仮設住宅では生活が難しい方がいる  
 (浴槽が深い、トイレが不便、外への出入りが不便)

↓  
 新たな手すりの取り付けやスロープの設置が必要!

↓  
 市町の担当部署との協働

「バリアフリー化の支援には継続的対応を。」

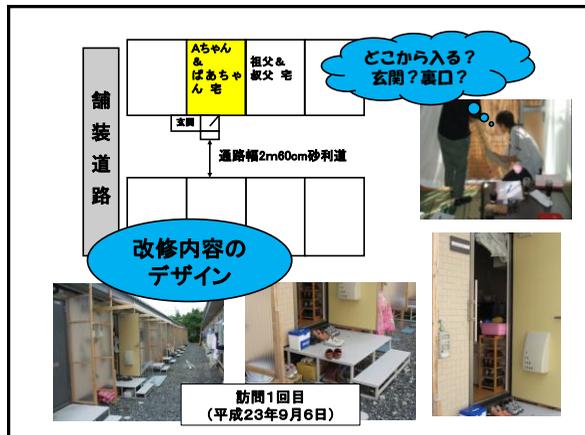
⇒ 県の保健福祉事務所スタッフが対応



浴槽の壁に手すりがなく、安全に入るのが大変だったケース

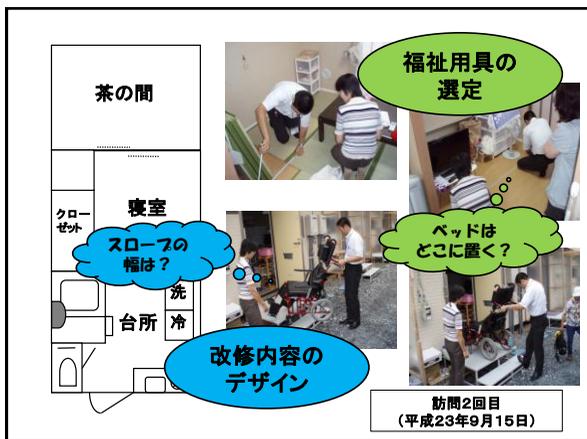
玄関外の階段に手すりがなく、転びそうで大変だったケース

## 住宅改修の流れ (仮設住宅, 南三陸町)



改修内容のデザイン

訪問1回目  
 (平成23年9月6日)



福祉用具の選定

ベッドはどこに置く?

改修内容のデザイン

訪問2回目  
 (平成23年9月15日)



着工前の確認

訪問3回目  
 (平成23年10月7日)